

HAND IN HAND

はんど・いん・はんど

〔個人を守る離婚制度の模索〕

■1979年3月末に第1回のコニコニコ離婚講座を開いて以来、丸13年の月日が流れました。金住典子弁護士との二人三脚で、東京だけでなく大阪でも開けるようになり、参加できない地方の人たちにも情報と知識をということで始まったハンド・イン・ハンドも130号となりました。

■コニコニコ離婚講座が100回を迎えた1988年10月、私たちは現在の離婚制度に対する改正案を練り、それを要望書という形で、政府や関係者に提出したのです。それは法律に関するものだけでなく、女性の経済的自立を困難にしている就業における年齢制限の撤廃や、保育所・学童保育への要望、そして自立を容易にするプライマリーケアの促進（役立つ相談業務等）他、1万人の離婚相談から得たさまざまな問題に言及したものでした。

■要望書を提出しても何の回答も得られませんでしたし、離婚をめぐる状況も変わらない。しかし、多くの人たちが賛同してくれ、知力を結集して、改正に向け働きかけていこうということになり、1989年から離婚制度研究会ができました。毎月一度、専門の先生方に来ていただいて勉強会を開き、ディスカッションし、その中から、3つのことが今、まとまりつつあります。ひとつは子どもたちを守るための離婚制度への理念と具体案。そしてひとつは、離婚相談のあり方を問うもの。さらに、協議離婚制度への提案です。

■政府も離婚制度を改正するつもりようですが、私たちの個人的な生活が縛られるのではなく、人権が守られ豊かな生き方のできる改正であるよう、私たちの生の声を反映させたく、今、研究会の勉強とまとめに拍車をかけています。126、129号と続けて忙しい皆さんにアンケートのお願いをしたのもそのため。お許し下さい。（円より子）

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚—それは旅の半ばの一つの出来事。新たな旅立ちをした女たちはいま手を取りあい、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。ハンド・イン・ハンドは生きやすい社会をめざし、支えあう女たちの流木である。



第130号 200円 禁無断転載

【発行日】1992年2月1日

【発行所】現代家族問題研究所
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-23-504
〒151 電話03(3402)7354、4385

【発行・編集人】円 より子

【編集スタッフ】雪野 美子

【印刷】(株)日出島

★特集★

'90年6月30日実施 第117回ニコニコ離婚講座から

★ 離婚戦争 ★

隔月刊「わいふ」編集長・田中喜美子

やるかやらないかで迷っているのならやる——これは主婦の投稿雑誌「わいふ」編集長・田中喜美子さんの持論です。今回はこの力強い言葉を皆さんにご紹介したいと思います。

今年で15年目なんですけど、私は「わいふ」っていう名前の、ほとんどが主婦の投稿で成り立っている隔月刊の雑誌を出しています。ですから私は、いわゆる「学識研究者」と呼ばれている人なんかよりは、主婦の問題についてずっとよく把握しているという自信を持っているんですね。なぜならたくさん主婦の方々から現場の声が寄せられて、それをみているからです。しかも15年もやっているのと、読者が年をおうごとにどのように変わってきたかということまでわかっています。

そういうふうにな年をおって読者たちの変化をみていくと、中には「自分の生活を変えるため思い切って一歩外へ踏み出し、それまでとは比較にならないほどイキイキとした生活を切り開いた」という人がずいぶんいます。

今日はその実例をご紹介します。今までは女って自分の周辺の人達と社会常識にばかり捕われていて、小さな小さな世界に留まっていたんだな。でも一歩外へ出てみると、もっと違う生活があるんだな。そしてその中でそれなりに努力して

いくと、まだまだいろんな思いもかけないような可能性があるんだな。人間って自分の人生を自由に自分自身でデザインすることができるとは、なかなかわかっていただければ、とっても素晴らしいと思います。

■「妻たちはガラスの靴を脱ぐ」

私は'86年に「妻たちはガラスの靴を脱ぐ」という本を書いたんですが、今からお話する例はその中でもご紹介したものです。

ちなみにこの本は、今まで心地いいと思って履いていた靴、つまり生活が、実はガラスのようにもろく決して心地いいものではないということに気付いて、脱ぎ捨てて新しい生活を発見して、イキイキとした生活を送っている人がいるんだよ、ということを言いたくなくて書いた本なんです。

15年間「わいふ」をやってきて実感してはいますが、昔と今とでは主婦の状況というのは驚くべく変わっています。14年前は「主婦は外へ出ようと思って出ていく場所がない」という状況だったのに、今は働くにも学ぶにも遊ぶにも主婦が出ていける場所はたくさんあ

る。特に仕事の場所は非常に開かれてきた。社会が全体として女性の労働力を必要としてきているからです。何か一つ取柄をもてばいくらでも身の立つような状況になっているわけです。

「わいふ」の副編集長の和田さんが離婚について詳しいんですが、彼女に聞くと「うっかりした亭主を持つてより、離婚していろんな扶養手当ももらった方が食うに困らないんだよ。市営住宅や都営住宅も優先的にしかも非常に安い家賃で入ることができる。とことん研究してそれを全部もらえるようにすると、日本というのは結構、社会福祉が行き届いている面があるんだよ」とのことでした。

ですから「今の生活は不満だけど」と迷ってらっしゃる方も、勇気をもって、これからお話しする女性たちの姿を参考に、何かしらのヒントを得ていただければと思います。

■事例1／こんな美人だったの!?

私が彼女に初めて会ったのはもう12年くらい前のことです。東京の神楽坂で開いた「わいふ」の集まりに来てくださったんですね。

当時彼女は27歳で、お医者さんと結婚したばかりの若妻でした。

さて彼女は、最初の頃、「わいふの人は、結婚生活がうまくいくにはお互いの価値観が一致しないとダメだというようなことをよく言うけど、そうじゃないと思う。価値観はそんなに一致してなくても性的にお互いとても相性がよければいいと思う」というようなことをおっしゃっていました。

その方は、背が高くグラママーで非常に美しい方で、国立の有名大学医学部にいた旦那さんに見初められて結婚なすったんですね。もう彼が毎日毎日校門まで彼女を車で迎えに来るといふ熱々の仲だったそうです。彼女はそういう熱い恋愛で結ばれていますから、価値観が一致しない結婚はうまくいかないなんていう我々の理論は、ちゃんちゃらおかしかったわけです。「性的に相性がよければいいんだ。そして旦那に甲斐性があったお金で十分あれば結婚というのはいくくんだ」と、非常に現実的に考えてたわけなんです。

子どものことにしても「何かしたいと思ったら3人目なんか生むと悲惨だよ」とって私が、差し出が

ましいながらも言っても、3人目を作って「3人目ってかわいいわよ。田中さんなんかダメじゃない、1人しかいなくて。1人っ子の親なんていうのは半端よ。3人くらいいなきゃ」とって意気揚々としていらいしたわけです。

ところがその3人目の子どもが生まれて4、5年してから夫婦仲がおかしくなってきた。なぜかという原因は夫なんです。夫の定期入れの中にコンドームが入っていた。女の人ってすごくカンがいいもんでピンときちゃうわけなんです。特に彼女のように相思相愛で結婚して、結婚後も夫との関係を男と女の関係としてとらえて密にしたいと思ってるっしやる方はすごい。夫が変になってくるとすぐピンときちゃう。

でまあ、そのコンドームが出てきてからというもの、いろいろゴタゴタがあって、そのうち夫との関係がどうも修復不可能になってきた。何日も夫が外泊するようになり、ついにはもうほとんど家へ帰ってこなくなりました。

ですから彼女はその頃、本当に凄惨な顔をしてらっしゃいましたね。私はああいうときの妻の顔と

いうのは一種独特のやつれ方をすると、この目の当たりにしたんですけど……

ところで重要なのは、ここでの彼女の対応の仕方です。こんな状態にあって、彼女は非常に賢明にふるまわれたんですね。どうしたかという、勤めに出たんです。

例えば相手の家に怒鳴り込む、爪を立てて引掻くとかね、そういう方向にいかないで勤めに出られた。「よし、私は自分の生活を変えてみよう」とお思いになったんですね。相手の女の方とは一度お会いになったようですけど。

もちろんこう決心するまでにはずいぶん揺れ動かれました。

彼女は社宅に入ってからして回りは皆お医者さんの奥さんなんですよ。で、お医者さんの奥さんに相談するとね、差別的に聞こえるかもしれないけどどういわけかこういうアドバイスをなさるわけ。「もっと一生懸命に家のことをしなからダメなのよ。あなたは少し外で遊び歩き過ぎるのよ。もっとおとなしくして夫の心を家に引き止めるようしなさい。今、この夫を手放したらこれだけのお金がいっに入るってどういうの？」って。

でも私たち「わいふ」の方ではね、こうアドバイスしたんです。「それは違うと思う。そんなことやりね、あなた体動かして何かやってみなさい。あなたの人生をまず膨らますことが大事よ」とって。

こうやって一度に全然、違う人から違うこと言われて彼女も本当に揺れ動いてらっしゃいました。でも「このままでいたら自分はノイローゼになっちゃう」というので、最終的に外に出ることに決められたんですね。

この決断は非常に賢明だった。そして外に出たら運がついて、最後には非常な出世をなすった。

最初は生命保険の外交員をされたんです。そして「今、私は立ち直らなきゃならない。仕事というものをしてみなきゃなんないんだ」とってすごい自分に鞭打って非常に頑張ってたんですね。そして、いろいろな男の会社を巡って行くうちに「あなたは元気がいいからこれをやってみないか」とって他の口が付いた。それで成功されたというわけです。

これ以降の話は本には書いてませんが、この後も素晴らしい。この夫、実に滑稽なことに妻と

別れてまで一緒になろうと思っていた女にもふられ、結局、両方ダメになっちゃって寂しく一人でアパート暮らしてるんですね。そして時々、元妻のところ遊びに来ます。そうすると彼女「あいついい男になったよ」って言うんです。「身体がものすごく軽く動くようになった」って。「ちょっとあなた、あれが足りないからひとつ走り買ってきてよ」っていうとパーッと行って買ってくるんです。前は全然そうじゃなかったのに偉い」って。

彼としては復縁したいんです。でも彼女は、「時々会うだけならいいけど、私はもうあんな男と結婚するつもりはない。結婚したらまた元のモクアミになることはわかっているから。それに今の社会的地位を失いたくない」。

彼女の年収は420万です。20歳で結婚して子ども3人生んで、一度も勤めに出たことなし。それであの問題に突き当たったときが32、33。それから8年働いたって言ってましたが、隆々たるもんです。美しいです。

彼女はもともと美しい人なんだけれど、私が彼女と最初に会った

ときは不思議なもんで、全然きれいな人とは思わなかった。なにかモサツとしてて、べろっとした感じでね。ちっともイキイキしたところがなかった。体が大きくてもその大きさがちっともプラスに影響してない。

ところが今や、彼女がハイヒール履いて、例えば男がいっぱいいるような集会に行つて部屋の中にカッカッて入つていこうものなら、皆がもう「……」と息を飲んで見るような美人になっちゃいました。

■やるやらないで迷つたらやる！

私は人生行き詰まったときに何が一番大事かかっていったら、体を動かすことだと思つてます。もう非常に物理的に何かやってみる。ダメでもともと、それで失敗してもそれはマイナスにも何にもなりません。その失敗の中から「ふうん、そうか。これはそういうことなんだ」って学ぶこといっぱいあるんですね。ところが引つ込み思案で鬱々として何もやらなければ何ひとつ変わらない。

「やるかやらないか」それだけのことなんです。

これはいつも私が言っていること

なんです。「どんな場合でもやるかやらないかで迷うときはやる方を選んでください」。そうすればやった人とやらない人の間には10年後、ものすごく大きな差がでます。1年2年では差がみえない。4年5年でもまだみえない。でも7年8年頃には大分違つてくるというのが出てきて、10年経つ頃にはすごい違いができています。

これだけは私、自信をもって皆さんに申しあげられます。

■夫は仕事、妻は家庭って本当？

ちょっとここで、「実は昔の女っていうのはもっともつとずつとイキイキしていたんですよ」ということについてお話しします。

なぜ昔の女がみんなイキイキしてたかという、それは生産労働に関わっていたからなんです。社会的に外に出ていって、自分の手で作物や獲物をとってきて、自分で売りさばいて、自分自身の手に経済力を握っていた。だから自分の生活というものに自信を持っていたわけですね。海女さんなんかはその典型ですね。

だから男の方も「女は他の重要なことで忙しいから」ということ

で、「ネクタイだハンカチだ」と一々、妻に面倒をみてもらうなんてことはなかった。服でもなんでも全部自分でちゃんと整えて仕事に出かけたんです。

女が夫の生活を支えるため、小問使のように夫の身の回りの世話をするようになったのは、ついこの50年くらいのこと。有史以来、初めてのことなんです。

だいたいにおいて家の中の仕事というものは、実は仕事などという名前に値するもんじゃない。朝時間に合わせて起こしてやることにしても、新聞を取ってきてやることにしても、洋服を揃えてあげることにしても、全部、夫と子どもが自分でやれば済むことなんです。仕事なんていえるもんじゃない。だからそんなことの繰り返しで一生を費やしてしまうなんてどう考えてもおかしいですよ。

■事例2/世間体に捕われて…

さて、それについてはこのくらいにしようひとつ別の女性の例をお話しすることにします。これは離婚に至らなかったケースなんですけど、それにはそれなりの必然性があるんですね。この必然性



というのがどういうものであるのか、今日、皆さんに心得ていただければと思います。と同時に、自分の無意識の中にどういふ気持ちが潜んでいるかなあということもお考えになってみてください。

この方は商家の娘さんだったのでサラリーマンの奥さんになるのが夢だったんです。そして夢になって、東大出の男と結婚した。ところがこのお嬢さんがたいへんに裕福な商家に生まれ育ったのに対して、夫はいわゆる貧家の出だったもので、この夫は妻に対してコンプレックスを抱いていた。そして同時にまた「東大出」というプライドもあった。だから夫は事々に「お前は贅沢だわがまだ」と妻を抑圧しようとする。

ですから、最初のうちでこそ良妻賢母に納まっていた彼女も、だんだん「これでいいのかな」と思うようになった。

それで彼女がどうしたかというところ、たいへん芸術的センスのある方だったのでそれを生かして非常に美術的なテクニクを身に付けられた。そして外へ出られて「先生」と呼ばれるまでにおなりになったんですね。

ここまではよかったです。でも彼女の場合、残念なのはここからなんです。

その夫というのは本当に嫌な奴なんです。もう東大出というのを鼻にかけてね。彼女のお兄さんが糖尿病か何かで失明したときにも「若いときから散々、好き放題やってきた報いだよ」と言ったらしい。もうこういう非人間的なことを平気で言う、許せない男なんです。

こんな男だし、彼女もそれができるんだからさっさと別れちゃえばよかったものを、別れなかったんですね。なぜかという世間体には捕われてるからなんです。例えば「子どもが結婚するとき片親だと相手の家に対して幅がきかない。いい縁談がこないんじゃないか。だから私はやっぱり離婚はしない」とって考えるわけです。

この「世間体」というものにと

らわれると、物事はどんどんマイナス方向にいってしまいます。自分自身や自分の考えが失われていきます。

彼女に限らず今の女性というのは、ほとんどの人が子どものときから娘時代にかけて、結婚するなから社会的身分がある程度あって収入がいい人、片親だと縁談が整わないなんてことを教えられて育ちますから、そこから脱皮するのは非常に難しいんですね。世間体から脱皮するのは難しい。

だから彼女も、先生と呼ばれてお金だって取れるようになっていけるのに別れなかった。

それで彼女が今どうなっているかというと、荒れてしまった夫と割り切れない気持ちのまま暮らしてるんですね。4年前、夫は身体を壊して目があんまり見えなくなってしまうんです。それで夫は今まで東大出ということで一生懸命目指していたポストにも就けなくなり、そのストレスを解消するため毎日大酒を飲んで妻や子どもを怒鳴りつけている。

私はね、彼女がもっと前に決断して離婚なさってればよかったと思うんです。それをしなかったら

っかりにこれから、自分の肉親に対してあんな暴言を吐くような夫と連れ添ってそいつの老後を見取らなきゃならないわけですから。相手がそういった弱い立場になつてからは、余計「ざまあみろ、これからこうしてやる」なんて言えませんしね。

■ 本当の意味での生活って？

私がね、今一番考えているのは死ぬ事についてなんです。人間は必ず死にます。この死に向かってこれからどういふふう生きていくかということなんです。

私はね、自分の人生って一回限りなんだ、これで自分が死んだらもうおしまいなんだから、自分の本当にやりたいことをやって死にたいと思っています。

なぜなら、自分が一体何を欲しているのか考え、自分が本当にやりたいことをやれば、死ぬとき「ああ良かった。私はやれるだけのことはやった。悔いはない」とって死ぬると思うからです。

皆さんは私と違ってもっともつと若い方ばかりです。まだまだこれから40歳の方は40年、30歳の方は50年という人生がある。だからこ

そ自分のやりたいことは何か考え、世間体なんかには捕われることなくそのやりたいことをやって生きていっていただきたい。

人間やろうと思えば「自分はこういうことができる人間だったのかとびっくりした」というくらいにすることが出来るものなんです。だから自分の人生を考えた上でもし大転換が必要であれば、迷っていなくてバツとやる方を選ぶ、そういうふうと考えていただきたい。

■子どもとの関係できてますか？

さて、最後にもう一つだけ言っておきたいことがあります。それは子どもなことなんです。

皆さんがこれからお仕事に向けてにせよ何に向けてにせよ、自分の生活を変えていらいっしょる場合に一番気になることは子どものことだと思いませんか。子どもが果たしてどうなっていくか、親の生活が変わるために自分の子どもがどうなるかっていうこと。これはもう当然のことですね。

そのところをカバーできないと母親というものはどういう方向に動くにせよ、なかなか判断が付かないわけです。

私は一昨年の秋に『働く女性の子育て論』という本を書いたんですが、その本を書いた経験を通して申し上げますと、母親が仕事を持っているか持っていないか、父親がいるかいないか、母親にお金があるかないかなどということは子どもには全然関係ありません。母親が外に出て働いていても、専業主婦で家にいても、母親がシングルマザーであっても、夫と仲が良くても悪くても、ほとんどこれとは関係ない。

問題は「母親が正しい方向で子どもを育ててるかどうか」っていう、ただそこにある。

その方向っていうのは、なにも言っておかせたり躰をしたりそういうことばかりじゃない。それも少しはあるけれど、そうじゃなくて、自分と子どもの人間関係をどういうものとして作り上げているか、それ一つなんです。

どういう人間関係にするかというその考えが、うまく母親の中心できていないとどうやっても子どもはおかしくなります。

今の日本の母親は、「きちんと言うことをきいて、きちんと勉強して、きちんと学校でいい成績を取

ってくるいい子にしたい。子どもを思い通りにしたい」と思う一方、「だからといって厳しくしたりうるさく言ったりして子どもに嫌われたくない」という意識で子どもに對してゐるんですね。

だから例えば「お母さん、あれ欲しいよ。買って」というときも「ダメよ」とは言いながら、床にねころがってバタバタ子どもに騒がれたりすると嫌われたくないもんだから買ってやってしまう。

そうするとどうなるか。親の役目というのは子どもに十分にお金をやること、好きな物を買ってやることと思ひ込むような子どもに育ってしまう。そういう子どもが大人になったら、もう経済的な背景のない親、力のない親をどうするか、これはもう目に見えてる。

つまり、子どもに嫌われたくない、でも子どもを自由にしたいという、二つの非常に矛盾した気持ちの中で母親自身の心が揺れ動いているから、子どもにきちっとした対応をすることもできなくて、その結果、変な子どもばかり育ててるといふわけです。「変な」といふのはつまり4歳や5歳になっても「何々しなさいよ。ほら靴を

そろえて。自転車を軒先に入れて」って毎日、一々いわないといけないような、生活能力のない子どもということですよ。

皆さん「おしん」ご覧になったと思いますけれどね、子どもっていうのは5歳ともなれば、子守りっていうれっきとした仕事もできるんです。雨が降ってくれば急いで庭に干してある物を取り込んだりできるんです。

私は子育ての専門家なんて口はばたかなくていえませんが、「わいふ」を通して母親がどういう対応をして、どんな問題が起こってくるかというのをたくさんみてきてます。だから言えるんですが、どういう生活をしたら子どもに悪影響があるかということをお考えになる必要はありません。

父親がいたって母親がいたって子どもとの間に不安定な関係しかつくれない親だったら、もう子どもはどうにもなりません。

大切なことは、「子どもとどういう向き合い方をしてるか、子どもとどういふ関係を結んでるか、それができてるかできてないか」という、ただそれだけなんです。



第七二回

東京都 Tさん

【家族構成】

私 三九歳(会社員)

長男 十四歳(中二)

長女 五歳(保育園児)

【住居】

2DKの民間アパート

離婚して早いもので、今年(91年)の10月で満2年になります。(注)この手紙は91年9月にいただいたものです

離婚の原因は夫の借金でした。私はずっと仕事を続けてきましたので、それまでの生活は私の給料と貯金の引き出しでやってこれたのですが、入ってくるものがなくなっていくばかりの生活に疲れてしまいました。

そんなわけで離婚してからの生活の心配はありませんでした。むしろ今の方が楽になり、もっと早く結論を出しておけばよかったと

家計簿内訳
(1991年9月分・8/25~9/24)

【収入】	
給料(手取り)	240,917円
児童扶養手当他	53,770円
計	294,687円
【支出】	
家賃(消費税含む)	88,683円
光熱費	60,926円
被服・クリーニング	13,217円
保健・雑貨	7,807円
保育料	8,100円
教育費	10,396円
教養・娯楽	5,953円
交際・電話代	5,620円
交通費	1,540円
私小遣い	3,510円
保険・年金	37,280円
その他	15,714円
日用品消費税	1,782円
貯金	23,000円
計	294,687円

思っています。

というのは、離婚すると税金が減額され、保育料も減額され、学校の給食費の援助、児童扶養手当等の援助が得られ、確実に収入に結び付く金額になり、毎月の予算も立てやすくなり、ずっと生活がしやすくなったからです。

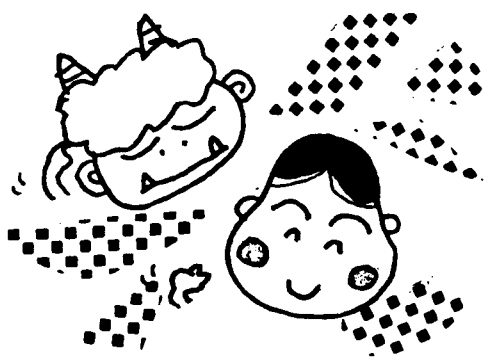
また勤めて7年になりますが、会社が離婚したことによって少しは賃金を上げてくれて、親子3人の生活も贅沢しなればなんとかやっていけるようになりました。

今ちょっと頭が痛いのは家賃が高いことです。12月には契約の更新

があるため、これはさらに高くなる予定です。年に3、4回の都営住宅の申し込みはしているのですが、なかなか当たらず、がっかりしています。

それから息子が中学2年生で、再来年に高校受験をひかえているため、何とか少しずつでも貯金をしておかなければと心がけています。幸い息子は塾が好きでないので、塾にかかる費用が浮く分、貯金に回すことができます。下の子はまだ5歳と小さいので、保育料の他は

何もかからず助かっています。私は会社への通勤は自転車です。



分ぐらいのところ、お昼は自宅に帰りますので、お昼代はほとんどかかりません。でもたまに息抜きで外で食事したりするので、その分は私の小遣いとして3000円の予算がとってあります。

7月から社会保険料が上がったので給料の手取り分が8000円ぐらい減額してしまっていて、ちょっとがっかりしています。

このように、とても楽とはいえない現状ですが、まあ健康で働いていければなんとか親子3人、楽しく暮らしていけると楽観的に思っています。

ハンド・イン・ハンドは、みなさんがつくる雑誌です。みなさんの日常考えていることや、生活の匂いが伝わってくるような、そんなハンド・イン・ハンドでありたいと思います。お便りをどんどんお寄せください。

年賀状から

★毎月「ハンド・イン・ハンド」ありがとうございます。今年もよろしく願っています。

K・Y (熊本)

★あけましておめでとうございます。この一年、精神面でも色々、励まされ、ありがとうございます。今後もしっかり願っています。

S・G (東京)

★おめでとございます。昨年は充実した年でした。今年も健康一番で頑張ります。どうぞよろしく

(栃木)

!! ★今年アロマテラピーを始め、ハーブ、野菜、野草といういろいろなことにチャレンジします。特にアロマテラピーはハーブのさまざまな香りをコロンやオイルにして、ストレッチや心理療法に使えます。そのうち詳しくご紹介しますね。

(山梨)

★ハンドの会です。事務所の

皆様のお仕事大変だと思いますが頑張ってください。会報、楽しみに読んでいます。入会したとき一だった娘もこの春から大学生になり、月日のたつことの早さを感じます。

(東京)

★毎月お忙しい中、郵送して頂きましてありがとうございます。今年も転職しました新たな気持ちで母子でがんばって生きていきます。

(神奈川)

★昨年1年はあっという間に過ぎてしまいました。今年も一歩一歩前進していきたいと思えます。ハンドの会と共に。

R・K (愛知)

★昨年ハンド誌には大変お世話になりました。本年も楽しみにしていますのでスタッフの皆様、がんばって下さい。7月に正式に旧姓にもどって半年近くがたちました。学生時代から大切にしていた友人達はほとんどが今までと変わらないつきあいをしてくれ本当に感謝しています。しかし子育ては少々、失敗しました。やはり心

◎ 私たちは「事実婚」のまま、つまり婚姻届けを出さないまま結婚生活を2年間送ってきました。子どもはいません。

最近、彼の方に好きな人ができたらしく、事実婚の解消を申し入れてきました。私も、彼の方に結婚生活を続ける気がないのなら、別れるのも仕方ないとは思っているのですが……

このように、婚姻届けを出していない結婚の場合、別れるときはどうしたらいいのでしょうか？



意識的に婚姻の届け出をしないカップルは、「内縁」でもないし「同棲」でもありません。

届け出のない共同生活という実態は共通でも、当事者の意識や生活実態が違ってくるからです。

あなたの方のように、二人の愛と信頼を重視し法律的保護を不要と思うカップル、あるいは夫婦別姓を実現するために届け出をしないカップルは、あなたも自分でおっしゃっている通り、「事実婚」と呼ぶことが多くなりました。

婚姻届けを出していないのだから、どちらかが「別れる」と言い出せば、それでジ・エンドです。何ら

かの離婚届けを出す必要もなく、特に何かの書類を作る必要もありません。

ただし、今まで続けてきた共同生活を解消するのですから、共同生活中に財産を形成していればその清算が必要ですし、時には解消後の扶養も考えられます。

つまり、法律婚の場合の離婚と同じく、財産分与規定を準用して公平に財産を清算すべきです。さらにあなたの方のカップルのように一方の責任で事実婚を解消するときは慰謝料請求もできます。

対等なカップルとして事実婚を選んだあなたの方ですから、これらの財産給付問題も含めて冷静に話し合えると思えます。

話し合いができたなら「事実婚解消に伴う契約書」などを作成し、後日にトラブルが残らないようにするのがいいでしょう。

弁護士 松尾道子
☎〇六(三二六)一七六八

◆簡単なことでもかまいません。法的なことでも質問したい点がありましたら、表記事務局編集部までお寄せください。松尾、竹川両弁護士に回答していただきます。

の底に離婚したひきめを持っていて、子どもにはしっかりして欲しい！の一心で突き放した態度をとってしまい、結果おしっこが近くなり、一カ月ほど悩みました。うちの娘は本当に甘えん坊なのですが、それでいいではないかと思えるまでに親が成長していかなくなったんですね。子育ても自分のこともあるがままを受けとめ、次のステップへとゆるやかにつなげていくことは本当に難しい。今年も失敗しながら少しずつ本当の大人になるため成長していきたいと思っています。

(東京)

◆ ■離婚シングルの方、お便りを

(長野)

私は自分の方から望んで離婚いたしました。このまま本意に自分の一生が決まってしまうのが嫌だったからです。彼は基本的には「人の好い」人だったので、離婚までにはとても長い時間が必要で、「自分は別れるのは絶対嫌だから」と強く主張され、紙切れ一枚の力がどれほどのものかと考えさせられました。

自分の人生は結婚も離婚もすべて含めて今後につながっているの

に、今の私は(離婚を)世間に隠して生きています。同じ職場ですと働いていますが、職場の人々は知りません。とても不自然で苦しい気持ちです。離婚を選んだのは自分だし、はっきり片が付いたからこそ前を向いて堂々としていきたいのに、女性として中途半端のような気がしてきて、世間を気にしています。子どももない本当のシングルだからでしょうか。

今は実家に住んでいるので、自立しようとアパートを探しています。そして自分の今後の方向も考え仕事についても考えています。同じ立場の離婚してシングルになった方(子どもがいない方)、ぜひ手紙をください。もっともって元気に生きていきたいのです。

■心淋しい方はお便りを

(長野)

友人の好意で送っていただき、毎回楽しく読ませていただきました。皆さん、不安を持ちながら頑張っている姿が浮かんできます。

私の場合も皆さんと似たり寄ったりですが、今は精神的葛藤もなく、心穏やかに生活ができること

に感謝しています。皆さんのように豊かな生活には程遠いですが、物を大切にの精神で高一の娘と中二の娘を育てています。私の一生が終るまで離婚がよかったかどうかわかりませんが、今いえることは自分の力、考えて自分の人生を楽しんでいくことは確かです。

娘2人には何でもよいから資格を取るようすすめています。若い頭にいっぱい知恵を入れてほしいからです。上の子は看護婦の資格を取ろうかと思っています。

楽しい人生、楽しい人間関係、自分が事を起こさなければ何もできません。来るのを待っていては何もありません。積極的な人生を送ろうと、同じ失敗をせず、今の自由を大切に生きようと、また人のためになるよう生きようと頑張っています。皆様もお体を大切に頑張ってください。

今回で購読は一時、中止させていただきます。ありがとうございます。また心淋しい方がありましたら、お便りください。私の経験をまじえ、お力添えできればと思っております。

■事務局便り

★福山先生の研修会に参加しています。楽しい雰囲気の中で改めて考えさせられることが多くあります。もっと早く先生と出会うことが出来ていたら、どんな自分になっていたかな、と。(小木)

★住所変更等、事務局への連絡には会員番号を一緒にお願います。(星野)

★生後30年目にして初めて実家以外の場所です正月を迎えました。空いた東京の街中を車でスイスイ走るのを楽しみにしてたけど案外混んでガッカリ。仕方ないから寝正月を決めました。でも初夢を見たのに思い出せなくてこれまたザンネン！(雪野)

★最近とくに、月日のたつのが早く感じられるのは、年齢のせいでしょうか。一年の過ぎるのがあっという間の気がします。一日一日大事にしないで、すぐおばあさんになっちゃうそうです。(佐藤)

★今、一月一日の午前十時四十分です。いつもなら皆さんのお手許に届く二十日前くらいに原稿を書いたのですが、今月はこんなに早く書かないと間にあわない。三日には雪野さんが我が事務所へ入稿のため、もう初出社するからです。だから二月号なのに先程、表紙原稿について「あけまして」と書き始め、「ママ、何月号書いてるの」なんて娘に言われてしまいました。(円)



第一三五回ニコニコ離婚講座

平成四年二月二十九日(土) 一時半～五時。飯田橋セントラルプラザ6Fで(JR飯田橋駅下車隣り)。ゴードン美枝さんの「危機をチャンスに変える法」と金住典子弁護士による「離婚の法律と手続き」。参加費は二千元。電話で予約を。
☎〇三(三四〇二)七三五四

会合のお知らせ

★東京事務局の会合

平成四年二月二十九日(土) 午後六時～八時半。事務局で(JR千駄ヶ谷駅下車四分)。ハンド一三一号の発送をします、よろしく。

★東京の会合

今月はお休み。発会式の詳細は次号で報告します。

★大阪のニコニコ離婚講座

平成四年二月十三日(木) 午前十

時半。大阪府立文化情報センター(住友中之島ビル5F)で。講師は松尾道子弁護士。

☎〇六(三九九三)一三三二

竹川法律事務所(渡部)

☆手紙掲載について☆

長い会員の方はご承知と思いますが、このハンド・イン・ハンド紙は皆さんの生の声を大切にしています。そのため、事務所や円より子あてに来る手紙はできるだけ取りあげるよう努めてきました。

掲載していかどうかの了解はとらず、離婚してる人は本名で、夫と同居または別居中の人はイニシャルで出してきました。中には「掲載時はイニシャルで」という添え書きがあり、それはその通りにし、こ

求人のお知らせ

古くからのハンドの読者であるさんからの求人です。

- ①障害のある人たちの作った物を売る店が武蔵小山にオープン。その店長を。年齢・性別・経験不問。年収四百万。正午～八時半。火休。
- ②東京駅のテーマショップで。十時～八時。週の内何日か。時給千円。①②共詳細は東京

れまで問題はないと思っていたのですが、先月号掲載の方から、「イニシャルでも困る。了解も無しに載せられて不愉快」とのお手紙をいただき、大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。

しかし、編集の都合上、了解をとることはできません。(時間的なことと、皆さんの電話番号が不明なこと等)。ですから、お手紙は掲載されるものと了解して下さい。いやな時はその旨、書いておいて下さるようお願いいたします。

☆購読料値上げについて

一九八五年一月号から三〇〇円だった年間購読料を、値上げさせて頂いたいただきました。

現在の購読会員は、会費が切れた時点からの値上げとなります。

七年間、諸物価高騰・消費税導入で、郵送費・印刷代等すべて値上りしましたが、購読料は据置してきました。申し訳ありませんが、六〇〇円アップ、ご了承くださいませ。

- ①一年間三六〇〇円(送料共)
- ②二年間まとめて前払いしてくださる方には、二年分、七二〇〇円のところを六〇〇〇円に。

③出世払いもしくは免除 どうしても苦しい方は、いつでも遠慮なく申し出てください。

☆離婚一〇番

〇三―三四〇二―七三五四
〇三―三四〇二―四三八五
電話相談は第一、第三土曜日が午後一時～四時。第二、第四、第五土曜日が午後六時～九時。